

水 振 協 ニ ュ ー ス

(平成 29 年度号)

編集・発行 (公財) 滋賀県水産振興協会

草津市志那町柿根 1393-2

TEL 077 (568) 3451

FAX 077 (568) 3788

平成 29 年度の放流事業結果は・・・

- ・「ニゴロブナ 1,148.8 万尾・ホンモロコ 1,354.8 万尾・ワタカ 1.5 万尾」を放流！
- ・「人工河川 アユ親魚 18.2 トンの放流」を実施！「38.5 億尾のアユふ化仔魚」が琵琶湖へ流下！
- ・「セタシジミ資源回復の技術開発を行うため、セタシジミ増殖実証事業」を実施！

ニゴロブナ

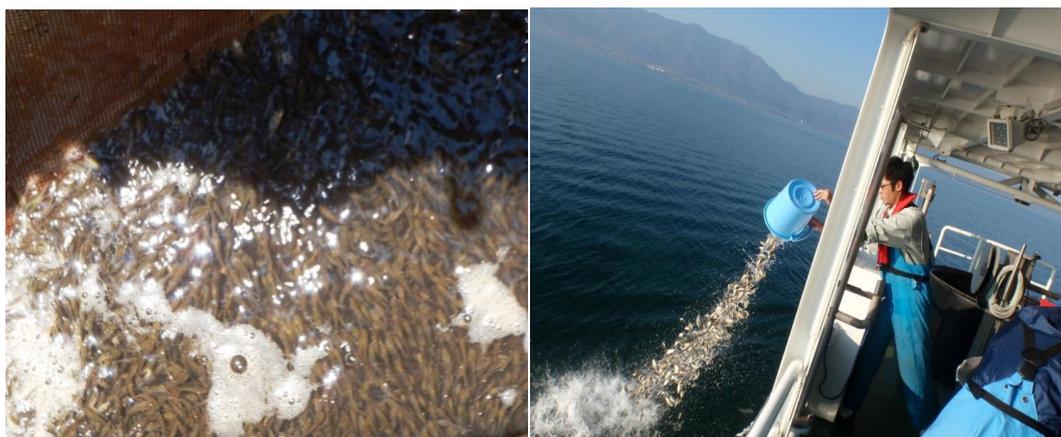
2 cm 稚魚の放流尾数は、水田育成が 829.6 万尾(計画 800 万尾)、栽培漁業センターでの生産放流が 23.2 万尾で、合計 852.8 万尾でした。また、平均体重 20.3 g の大型稚魚 62.2 万尾を栽培漁業センター、平均体重 19.9 g の大型稚魚 25.3 万尾を北山田地先筏(草津市)で生産し、さらに滋賀県漁業協同組合連合会(県漁連)から平均体重 14.2 g の大型稚魚 7.6 万尾を購入し、合計で 95.1 万尾(計画 97.5 万尾)を放流しました(放流内訳は南湖 28.8 万尾、北湖 66.3 万尾)。その他に、県漁連では平均体重 18.2 g の大型稚魚 17.3 万尾を独自事業として北湖へ放流されました。

水田育成 主に沿湖漁業協同組合の御協力により実施し、542 反の水田にふ化仔魚換算で 1,894.1 万尾を放養し、約 1 か月後の中干時に 2~3 cm の稚魚 829.6 万尾を琵琶湖に放流しました(放流内訳は南湖 174.1 万尾、北湖 655.5 万尾)。水田からの稚魚の流下率(流下尾数/放養尾数)は約 44%でした。

また、赤野井湾周辺の水田(守山市)にふ化仔魚 200.9 万尾(計画 200 万尾)を放養しました。水産試験場の調査によりますと、流下率(流下尾数/放養尾数)が約 19%で、約 37.2 万尾の稚魚が赤野井湾地先に流下しました。

放流効果 当協会では種苗放流の事業効果を知るために、平成 30 年 2~3 月の今冬季に、北湖において小糸網、沖曳網漁業で漁獲されたニゴロブナの標識調査を行っています。今冬季の放流魚の混獲率(漁獲魚に占める放流魚の割合)は調査

中ですが、平成 29 年 2～3 月（冬季）の放流魚の混獲率は 29.7%(前年は 37.7%) でした(北湖での漁獲物 962 尾調査)。それら放流魚のうち、水田放流の稚魚と沖合及び沿岸に放流した大型稚魚の混獲の内訳は、各々 14.5%と 15.2%でした。近年、北湖での放流魚の混獲率は減少傾向に転じており、このことは逆に天然魚の割合が増加傾向にあることがうかがえます。また、平成 29 年 3～5 月の南湖における放流魚の混獲率(調査尾数 245 尾)は、79.6%(内訳は水田放流の稚魚が 1.6%、大型稚魚が 76.7%)で、過去 2 年間 (42.3～77.6%) でも高い値を示しており、天然魚は北湖よりも少ない状況であると考えられます。なお、南湖における放流魚の混獲率に関しては、さらに調査尾数を増やして今後も継続してモニタリングしていく必要があると思われま



水田から流下した2～3cmに育ったニゴロブナ稚魚
(流下調査時)

水産試験場、琵琶湖丸によるニゴロブナ大型稚魚
の放流(北湖)



ニゴロブナの年度別放流尾数(万尾)及び放流魚混獲率 (%) の推移

ホンモロコ

水田育成 ニゴロブナと同様に、より放流効果の高い水田の生産力を利用して2～3 cmの稚魚に育ててから、中干時に琵琶湖へ放流しました。詳細につきましては、主に沿湖の土地改良区管内の農業者さんの御協力により実施し、907.5 反の水田にふ化仔魚換算で3,064.5万尾を放養し、約1か月後の中干時に2～3 cmの稚魚 1,043.6万尾(計画 800万尾)を琵琶湖に放流しました(放流内訳は南湖 94.5万尾、北湖 949.1万尾)。水田からの稚魚の流下率(流下尾数/放養尾数)は約32%でした。

また、赤野井湾周辺の水田(守山市) 66.9反にふ化仔魚 206万尾(計画 200万尾)を放養しました。水産試験場の調査によりますと、流下率(流下尾数/放養尾数)が約21%で、約43.8万尾の稚魚が赤の井湾地先に流下しました。

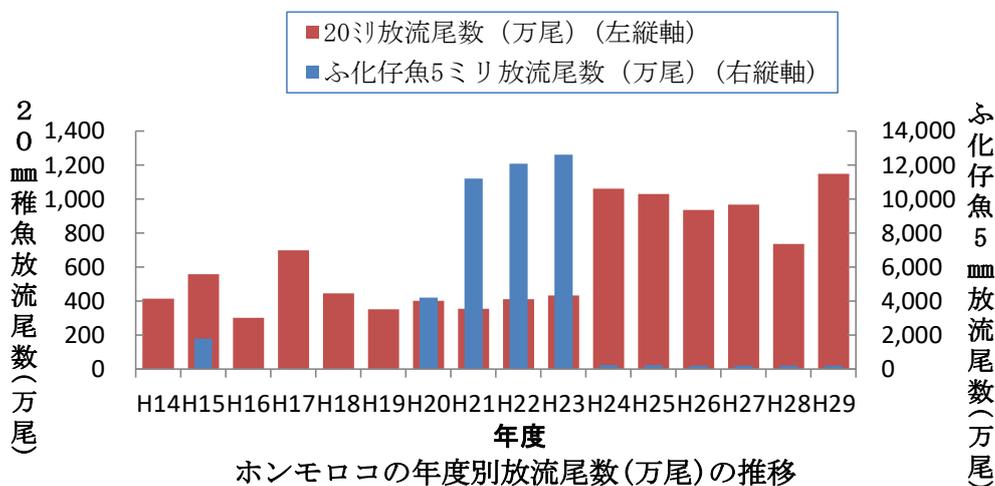
北山田地先筏 北山田地先筏(草津市)においても2 cmの稚魚を生産し、105.2万尾(計画 100万尾)を南湖(草津市下笠地先等)に放流しました。



水田から流下した2～3cmに育ったホンモロコ稚魚
(流下調査時)



北山田地先筏で生産したホンモロコ2cm稚魚の放流
(放流場所:草津市下笠地先)



ワタカ

栽培漁業センターでワタカ約 5～20 cmの幼稚魚 1.5 万尾(計画 1.5 万尾)を生産し、主に南湖に放流しました。

また、琵琶湖南部を中心に漁獲された 261 尾について標識調査を行い、その結果、漁獲されたワタカのうち放流魚は、82.4%(前年は 81.3%)を占めていることがわかりました。



ワタカの標識調査(蛍光顕微鏡でALC標識の確認)



ワタカ稚魚の放流(守山市赤野井地先)

アユ (人工河川管理運用事業)

平成 28 年度のアユ資源は、近年類を見ない低水準にあり、平成 29 年度のアユ資源にも深刻な影響を与える恐れがあることが危惧されました。このため、平成 29 年度の人工河川管理運用事業において、8 月 23 日～9 月 6 日にかけて早期放流用の養成親魚として、通常の 8 トンの養成親魚放流に加えて、緊急資源対策で 10 トンの養成親魚を安曇川人工河川へ追加放流しました(総量 18 トン,625,900 尾)。また、姉川人工河川へは、9 月 11 日～21 日にかけて主に姉川河口のヤナで特別採捕した天然親アユ 190 kg、33,700 尾を放流しました。それら放流親魚の産卵ふ化の結果、9 月 3 日～10 月 18 日にかけて合計で 38.5 億尾(前年比 267%)のふ化仔魚を琵琶湖へ流下させました。



養成親魚の放流(安曇川人工河川)



流下ふ化仔魚調査(安曇川人工河川)

セタシジミ (セタシジミ増殖実証事業)

平成 29 年 2 月に琵琶湖で採捕したセタシジミの親貝 574 kg を、肥満度を上げるため富栄養な西の湖まで移送、垂下し、肥育養成しました。垂下肥育養成期間中は、月 1 回程度、垂下親貝の清掃等の管理を実施し、平成 29 年 5 月には近江八幡、彦根市の地先 2 か所の親貝放流試験区へその肥育した親貝 52.7 kg を再放流し産卵させました。その結果、親貝放流試験区の周辺では広い範囲で小型貝が増加していることが確認され、肥育親貝の産卵量も、琵琶湖に垂下した親貝に比べて 5.6 倍でした。



肥育養成中親貝の飼育管理(西の湖)



放流用肥育親貝の標識作業

最後になりましたが、県水産課、県水産試験場及び各関係漁業組合の各位に対しまして、種苗生産、放流及び標識調査にご協力頂きありがとうございました。